

私立済生病院

明治二十四年（一八九一年）三月、岩子が、東京市よういくいんちやう養育院長からたのまれて養育院のようごうせ幼童世話係長の職についたときのことです。

仕事につくとすぐに院内の子供をみてまわりました。

「こんにちわ。」

戸をあけて声をかけました。しかし、返事はありません。子供たちは、部屋のすみの方でうずくまり、元気がありません。ときどき、うす目をあげて、こちらを見るだけでした。

岩子は、この子供たちのようすをみて、

「笑うことを知らない子供は、不幸だ。」